

市政発展への尽力に感謝



11月8日、みやま市自治功労者表彰式がみやま市立図書館で開催されました。永年にわたり市政運営に功績があった方々6人と2団体を表彰しました。

※（ ）内は在職年数です。

▼元行政区長 木庭 桂次さん（12年）、原 裕さん（10年）、猪口 紘芳さん（10年）、原田 求さん（10年・遺族表彰）、金子 俊久さん（8年）▼民生委員・児童委員 前原 晴輝さん（10年）

▼永年にわたり社会奉仕活動を続けた団体 みやま市女性倶楽部

「女性の教養を高め、人格の向上ならびに会員相互の親睦、融和を図り、郷土社会の発展に寄与すること」を目的として、さまざまな分野における課題解決に向けた活動を展開され、市政の発展に寄与されました。

▼災害防止および救助に特に功績のあった団体 みやま市女性防火倶楽部

「家庭から火を出さないこと」を目的に、火災予防思想の普及と地域防災力の向上に寄与されました。

生ごみ分別で持続可能な社会を目指しましょう

生ごみ収集の効果

2020年度は市内で1,257トンの家庭生ごみを収集・資源化しました。みやま市の燃やすごみの量は生ごみ収集開始前の10,249トン（2012年度）から6,155トン（2020年度）まで減少し、二酸化炭素排出量は9,632CO₂トン（2012年度）から5,827CO₂トン（2020年度）まで削減されました。新ごみ焼却施設「有明ひまわりセンター」の建設負担額の削減にもつながり、財政負担の減少、環境にも優しい効果が生まれています。

集めた生ごみはどうなるの？

集めた生ごみは、バイオマスセンタールフランに運ばれます。そこで細かく砕いて、し尿・浄化槽汚泥と一緒に発酵させます。発酵時にできるメタンガスは発電に使われます。昨年は41万kWhの電気が生み出され、ルフランの電力として利用されました。消化液は液肥「みのるん」となり、240%の農地で利用されました。



バイオマスセンタールフラン

生ごみの資源循環



生ごみがルフランに運ばれる

異物を確認する

発酵させて電気と液肥を生み出す

液肥は農地に還元。資源が循環する

弁当作りから「食」を学ぶ



11月5日、東山中学校で「弁当の日」が行われました。家族で弁当の献立を考え、弁当詰めまでを行うことで、親子のふれあい、食への関心を高めることなどを目的としています。今回は同校の1年生36人が、校外行事の清水山散策に合わせて、弁当を作って持参。栄養バランスや色どりなどが考えられた個性豊かな弁当を楽しみました。生徒からは「火加減の調整や盛り付けが難しかった」などの感想が聞かれました。



自分たちで作った弁当を味わいました

道の駅みやまのパフェが西日本1位に



▲水茶屋樹徳庵を出店している八女茶業本舗の内田さんが販売している「抹茶のパフェぎよみず」が、西日本の道の駅で販売している冷たいスイーツの人気投票「道の駅ひんやりスイーツ総選挙2021」で1位に輝きました。みやま産のところで、抹茶のソフトクリームなどのり、味のバランスが好評。八女茶業本舗の内田繁さんが11月5日に1位獲得を市長に報告し、「1位になることができ嬉しいです」と話されました。

生ごみに金属やプラスチックなどが混入していると危険です

生ごみを分ける際、生ごみ桶にスプーンやプラスチックなどの異物が混入していれば、バイオマスセンターの作業員が手作業で取り除いています。異物混入は、機械の故障にもつながります。異物を混ぜないように、ご協力をお願いします。



生ごみ桶に混ざっていた異物

- スプーン
- フォーク
- 包丁
- たばこ
- はさみ
- 薬
- など

※ビニール袋など、プラスチックが特に異物として混ざっています。金属類やはさみ、包丁が入っていることもあって、とても危険です。

ごみの分別方法は市ホームページをご覧ください

